

「広報いわむろ」の通巻三百号達成をお慶び申し上げると共に、創刊時から二十五年間、激動の時代を村民一体となつて、送って歩いて来た岩室村の道程を、丹念に記録し続けた広報担当職員、苦勞に心から敬意を表したい。記念すべき創刊第一号のトップ記事は、昭和三十七年度一般会計予算の歳入、歳出の紹介で、予算額が七千七百万円であったことや、「小池生」と署名入りで編集後記を書いている主が、現在の小池丈夫村議と分かつたりして、



### 積極的な対応を

湯田一志さん  
下越新聞社  
社長

歳月の流れにあらためて感無量になつた。

「広報は住民と村とのパイプ役」というキャッチフレーズは口当たりがよく、いとも簡単にできそうだが、実は、作る人たちにとっては難行苦行の連続を要求される。行政の内容は得てして堅く、従って発行される文書も硬くて難解なものが多い。そのままを広報に流せば、村民は消化不良を起こしてしまい、主旨も半減して伝わる場合が間ある。広報担当者は四六時中、村民

は広報から何を知らたがり、何を望んでいるか、或いは「広報は一方通行となつてはいまいか」などと広く情報を集めて反省、検討を重ね、村民から歓迎される紙面作りを努力しているが、特に月一回発行の広報づくりは、取材のタイミング判断が最も難しいとされている。

「広報いわむろ」の最近号はお世辞でなく、毎号がすばらしい出来栄だ。大小の問題、出来事の焦点をとらえて要領よく簡潔にまとめ、写真を豊富に組み合わせソフトな味を加え、しかも品位を落とさぬ編集の才能は見事であり、県内町村広報のA級と評価されているのは当然であろう。

「広報いわむろ」がより良くなるために、希望をちよっぴり言わせてもらうと、①村民とのコミュニケーションのスペースがもっと欲しい ②村民か

ら明日の村づくりのビジョンを募って掲載 ③当面の村の重要課題について紙上討論会の開催などを実施したら、村民とのつながりはますます太く強くなるのではあるまいか。必要に応じてページ数を増やし、また、臨時号を発行するなどの積極的な措置も望みたい。年々発展している岩室村には町制施行の構想が立てられていると聞いている。しかし、村の首脳部だけの発想、計画だけでは実現は難しい。一人ひとりの村民の理解、協力があってこそ初めて成就するわけで、村と村民の意志のパイプ役として広報の存在が期待されてくる。

三百号達成を節目にして、岩室村の限り無き前進と村民の幸せのために、内容をより充実させながら発展して行くことを切望する。

## おかげさまで 通巻300号



岩室村長 金子誠一

昭和37年5月12日に第1号を発行してから今年で25年。広報いわむろは今号で通巻300号を迎えました。毎月1回の定期発行は、おかげさまで1回の休刊もなく皆様のご家庭にお届けすることができました。これもひとえに、村民の皆様のご温かいご協力の賜と感謝しております。創刊から25年——ひとつの区切りですね。この長い実績を踏み台に、これからも皆様と村行政を結ぶパイプ役として、広報いわむろを通じて、コミュニケーションの輪をさらに広げて行きたいと思ひます。そのため、さらに内容を充実させ、村民の皆様が毎月、心待ちにしてくれるような広報紙づくりを進めてまいりますので、どうか広報いわむろに苦言、提言、情報などをお寄せくださるようお願い申し上げます。そして相互交流の中で「創造する明るい岩室村」を築いて行きたいと考えています。最後になりましたが、今号の記念特集には報道3社をはじめ村出身の皆様から温かいご協力をいただき厚く御礼申し上げます。



### 300号に寄せて

本間昭一さん  
西蒲新聞社  
社長

「広報いわむろ」が発刊以来二十五年経ち三百号を迎えたことについて、まず敬意を表します。二十五年の間、一回も休まずに村民の茶の間に明るいニュースを届けることは大変なこと、同じことをしている私にとつても担当職員の苦勞がよく分かり、決められたワク内に活字や写真をきちんと納める何を掲載したらよいか計画しそれを足で実行に移す。よく取材のことを足で稼ぐ、と言いますが、そんな苦勞を村民の皆さんからもよく分かっていたら

ければ、担当者はそれを張り合ひにしています。まず良い広報紙づくりに専念できるものと思ひます。

最近、どこの町村の広報紙づくりも上手になってプロ顔負けとなつて来た、というのが実感ですが、編集者が上達すれば見る読む人たちの目も成長するはず。だからその道に関係する人たちは住民以上に勉強しなくてはなりません。

広報紙の中味については、どうしたら住民の声を載せられるか、できるだ

け身近なものなど意を用いているようですが、編集者がその姿勢を忘れぬ限り、村民に愛される広報紙づくりは全うされるのではないのでしょうか。特に「いわむろ」の広報写真は素晴らしく、プロ顔負けのもの揃いです。きつと役場職員の中に熱心なカメラマンがいるせいでしょう。第二九九号(三月一日号)を拝読させてもらいましたが、「写真は語る」一秘蔵写真館はいいですね。

最近、政争が激しくなつた吉田町で、広報紙に富所町長の随想が載つて物議をかもしているようですが、吉田町の話は別にして岩室村でも、課長や村三役の手記などを載せたらいかげなものでしょうか。村政上の言い訳ではなく、人生観や、その人の隠れた趣味など、広報を通じ親しみをもちてもらおうという狙いも込めて。

- 62 9月 新・越後七浦観音が自然休養村管理センター白岩前に開眼
- 61 11月 新村誕生25周年記念「生涯教育推進大会」を開催
- 60 1月 消防防災無線「広報いわむろ」開局
- 59 3月 石瀬・種月寺本堂が県指定文化財(有形文化財)になる
- 58 7月 自治宝くじ助成事業で間瀬運動広場完成
- 57 9月 間瀬田ノ浦温泉掘削整備事業がスタート(目標深度七百呎)
- 56 4月 和納保育園が移転新築完成(完成式3月27日)
- 55 4月 広報いわむろ通巻三百号達成(第一号発行から25年目)
- 54 7月 夏井浄水場完成
- 53 4月 間瀬地区公民館が旧支所跡に完成
- 52 7月 夏井浄水場完成

- 52 1月 岩室温泉のキャッチフレーズが「よりなれ、岩室」に決定
- 51 7月 初の国際大会・日米高校親善レスリング大会を岩中で開催
- 50 12月 村観光協会の「よりなれ岩室」観光年賀状の印刷スタート
- 49 1月 岩室村民憲章を制定
- 48 1月 水田利用再編対策協議会発足。配分面積は九十畝。
- 47 4月 国土調査事業がスタート
- 46 4月 和納三田団地(和納12区)に和納第二保育園完成
- 45 4月 村長選挙で金子誠一氏再選
- 44 8月 自然休養村事業で間瀬・崖松キャンプ場完成
- 43 1月 岩室公民館庁舎が西中地内に移転新築
- 42 1月 新村誕生二十周年記念式典挙行(岩室村公民館で)
- 41 7月 林道岩室金池線開通記念村民歩け歩け大会開催
- 40 1月 村の広報紙「いわむろ」のタイトルを変更
- 39 4月 村民体育館完成
- 38 9月 村民野球場・村民テニスコートにナイター施設完成
- 37 4月 自然休養村事業で丸小山野外緑地広場完成
- 36 11月 上越新幹線開通記念「にいがた景勝百選」に間瀬白岩入選
- 35 12月 馬堀法眼喜孝画伯から良寛逸話の大作五点(20号)を寄贈
- 34 4月 村長選挙で金子誠一氏再選
- 33 7月 間瀬小学校と塩沢町柳窪小学校の交歓会始まる
- 32 8月 役場・保健センター・消防岩室分署の三庁舎完成
- 31 2月 広報いわむろ縮刷版発行(1号)260号収録(五百部)
- 30 4月 国鉄・越後線電化
- 29 8月 岩室村役場間瀬支所(昭和9年建設)廃庁
- 28 4月 間瀬地区公民館が旧支所跡に完成
- 27 7月 夏井浄水場完成